



TITLE:

國事救貧ノ原理(一)

AUTHOR(S):

財部, 靜治

---

CITATION:

財部, 靜治. 國事救貧ノ原理(一). 經濟論叢 1918, 7(4): 435-453

ISSUE DATE:

1918-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/127447>

RIGHT:

# 經濟論叢

第七卷 第四號

(通卷第四十號)

大正七年十月發行

論

說

## 國事救貧ノ原理(一)

財 部 靜 治

一

慶應四年太政官ノ御高札ハ三ヶ條ヲ定メタル中ニ人たるもの五倫の道を正しくすへき事トセル  
後ヲ承ケ第二條ニ鰥寡孤獨廢疾のものを憫むへき事トセリ而シテソノ一面ニ於テハ「何事によら  
ずよろしからざる事に大勢申合候をとどうととなへとどうしてねがひ事くわだつるをこう  
そといひ」「堅く御法度たり」ト定メ明治七年ノ恤救規則モ亦原則トシテ濟貧恤救ハ人民相互ノ情  
誼ニヨリ其ノ方法ヲ設クヘキ筈トスルヲ立法ノ精神トセリ、不良ナルコトノタメニ團結スルヲ禁  
シ否特殊ノ階級民タル限り團結シ又ハ團結セントスルアラハソノ目的必スヤ不良ナリト認メ必ス  
之ヲ禁遏スヘシトスルノ趣ナキニシモ非ルハ武斷風ノ取成シタラサルカ、民衆情誼ニ厚クシテ理

性ニ疎カリシ時勢ニ養ハレシ骨肉隣保相養及愛憐ノ既成習例ヲ唯一ノ頼トシ之ヲ以テ永久ニ救貧問題ヲ解決セントシ否官ノ給與ヲ乞ハサルヲ以テ本旨トスルハ我家族制度ノ特徵長所ナリト誇ルカ如キ果シテ過去五十餘年ノ世變ニ對シテ具眼タリトスルヲ得ヘキヤ、吾人ノ經濟自由主義ノ諸制度ヲ採用セル時代ニアリテハ時勢相應ナル諸施設ノ必要ヲ促シ救貧ニ付キテモ亦一面自由制度ニ堪ユルカ如キ衆庶ヲ養成スルノ要アルト共ニ國家ノ施設上舊精神ノミニ依頼スルヲ得スト信スル者ナリ、素ヨリ國事救貧ニ關スル立法ハ他ノ國家制度假令ハ警察機關、司法機關、陸海軍維持ノ如ク文明社會組織ニ於ケル明白又必至ノ一職分視スヘク何等ノ説明、辯護ヲモ要セストスルヲ得ス、寧ロソノ反對ニカカル施設ハ一見人爲的ニシテ又不自然ナリ蓋シ之カタメニ人々ハ自ラ生存方便ヲ儲クルノ要ニ迫ラレサルカ如キ事態ヲ生スルト共ニ勸ク者ハ自力ニヨリ自己ノ生存ヲ支ヘントスルノ意ナク又ハ支ヘ得サル者ヲ支フヘキコトヲ強ヒラルレハナリ、從ヒテ事實上何故ニ國事救貧又ハ一救貧法アルノ要アルカ何等ノ原理ニ基ツキ餘儀、ク救貧ノ國策ヲ建ツルノ要アルカヲ議スルハ一般問題トシテモ興味アルノミナラス、特ニ我邦ノ問題トシテハ米價騰貴ニ處スルノ當面策ヲ講スルヨリモ一層重視シ得ヘキ題目タリ、吾人ハ素ヨリ之ニ付定言の最終解決ヲ得タリトナス者ニ非スト雖モ數月前本誌上救貧ニ關スル一文ヲ公クニセルヲ因ミトシ聊カ議セント欲ス。

慈善又ハ博愛ハ諸國ニ於テ善人生活ノ道トシテ推奨セラル、而モソノ語ハ心意ノ一習例乃チ慈悲心ヲ指ストナシ得ヘキト共ニ一努力ノ意ニモ用キラレ得ヘシ、慈悲心又ハ曩リナキ同情ニ基ツキ諸種ノ社會的人の慈善行爲ハ流露ス、世ニソノ例渺カラサルカ如ク慈悲心ノ習例積マレサル所ソノ慈善行爲ハ動搖不定タリ又割合ニ無謀ナリ、否慈善ヲ賣リテ私益又ハ名聞ヲ博ムルノ料ニ供スルノ弊ナキニ非ス、之ニ反シテソノ習例積マレタル程度ニ於テハソノ所爲ハ社會事情ノ賢明ナル一精査ヲ土臺トシテ營マルヘク一定ノ目的ニヨリ指導サルヘシ、從ヒテ又慈善又ハ救貧ノ諸原理ハソノ社會事情ト關係アリト言フヘク畢竟ソノ當時ニ行ハルル社會的目的及宗教觀念又ハ哲學觀念ト關係アリト觀シ得ヘシ、又慈善ニ就キ宗教思想上神ハ慈善ヲ好ム生死命無常、早可願涅槃煩惱身不淨、速可求菩提(童子教)ト云フカ如キ語句ニヨリテ示サルル一理想生命ヲ意味シ、一面ニハ又博愛衆ニ及ホスト云フカ如キ語句ニヨリテ示サルル理想ノ一社會關係ヲ意味ス、カクテ又慈善ナル語ハ諸宗教團體又ハ社會團隊ニ組合ハサルルコトトナルヘクカク考察サレタル同語ハ個人又ハ總員トシテ考ヘラレタル他人ノ幸福ヲ含意シ又彼等ノ眞善ヲ謀ルヘキ諸工夫ヲ念シ又聰明ト意志トニヨリコノ目的ヲ果タスニ勉ムヘキ訓練アル日常習例ヲ含意ス、從ヒテ慈善ハ救濟又ハ施與ト必然的關係ヲ有ストスルヲ得ス、愚民ニ對シテ道話ヲ試ミ窮乏セス貧民タラサル一病人ヲ看

護スルモ亦等シク慈善行爲タリ得ヘシ、路傍憐ミヲ求ムル者ニ白銅ヲ投シ門前ニ窮乏ヲ訴フル者ニ施米スルカ如キ臨機行動ヲ重スレハトテ慈善ノ陰德ヲ積メリトスルヲ得ス、慈善ノ實ヲ舉クルカタメニハソノ行動自カラ組織的ナルノ要アリ、コハヤカタ慈善特ニ救貧問題ヲ以テ解決難ヲ訴ヘシムル所以タリ、特ニ俗界ニ對スル宗教ノ羈束力衰ヘ行ケル現代ニ於テハ啻ニ宗教問題トシテノミナラス國家社會上ニ於ケル大問題トシテ攻究サルヘキ所ナリ。

## 三

現時ノ經濟學ハ起源サ迄古カラスト雖モ貧民ヲ救フノ術ハ何レノ國ニ於テモ太古ヨリ行ハレタリ東洋諸國ニツキテハ今姑ラク之ヲ問ハス西洋ニキテ見ルニ舊約全書中說ク所ノ富ミシ義人約百カ貧者ノタメニセル自己ノ事業トシテ說ケル所興味アリ、約百果シテ在世セルヤ又何レノ時代ノ人物ナルカ自カラ議論モ存スヘシト雖モ舊約聖書ニ說ケルノ一事實ハ古クヨリ救貧ヲ重シタルノ事實ヲ窺ハシムルニ足ル、ソノ所說(約百記第二十九章十一乃至十六節、今舊來ノ譯ニヨル)ニヨルニ我事を耳に聞る者は我を幸福なりと呼び、我を目に見たる者はわがために證據<sup>アノシ</sup>をなしめ、是は我助力<sup>ワカサケ</sup>を求むる貧しき者を拯<sup>スグ</sup>ひ孤子<sup>アノシ</sup>によび助くる人なき者を拯ひたればなり亡びんとせし者われを視せり、我また寡婦の心をして喜こび歌はしめたり(中略)われは貧者の日となり跋足<sup>アノシ</sup>の足となり、貧き者の父となり、知ざる者の訴訟の由を究めたり

トアリ、基督教未タ一勢力ヲ得ルニ至ラス、伯來人ノ信條大勢力ヲ有セシ當時人ハ窮迫セル者ニ對スル同情ノ本能ニ驅ラレ哲學者、宗教指導者ノ推稱セル善行ハ助長サレタリ、慈善ヲ勸奨シシ

ノ方法ヲ規定セル經文ノ章句ハ古代ノ諸宗教書ヨリ拔萃サレ得ヘク乞食ハ世ニ知ラルル一切ノ文學ニヨリ解セラル而シテ乞食アル所必スヤ之ニ與フル者アリシナラン。

慈愛慈悲ノ本能ハ始メヨリ間歇的ニ教育的、政治的、宗教的考慮ニ出ツル利己の本能ニヨリ加勢セラレ又ソノ諸行動ハ之カタメニ虛偽化セラレタルニ似タリ、而シテ是等ノ從動機中教育的の考慮詳言スレハ仁愛ノ動機ヲ養フコトニヨリ身ヲ修メントスルノ希望ハ個人ノ見地ヨリ重ンスヘキモ今姑ラク措イテ問ハス社會的考察上重ンスヘキ他ノ二考慮ニ付少シク說カンカ。

慈善ノ動機ナカリシ所政治的の考慮ノタメニ慈善行爲ヲ促カスコト珍シカラサルハ昔モ今ト異ラス、羅馬ノ民衆ニ無代又ハ至廉ノ穀物ヲ授ケシハソノ名義上民衆自身ノ所有セシモノヲ彼等ニ還ストイフニ過キサリシモ實ハ有害ナル施物タリキ、多數ノ人ハ疑モナク民衆ニ對スル同情ニヨリ之ヲナセシナランモ絶エス之ヲ増大セシメシ主要原因ハ政治上ノ自分最負タリキ、同様ニ棄子ノ厚遇、子アル婦人ノ給養社會的の優遇等ヲ目的トセル晩年羅馬帝國ノ立法ハソノ一部ハ不幸ノ徒ニ對スル同情ニ出テシナランモソノ主因ハ羅馬及伊太利人口ノ減退ヲ補ハントスルノ希望ニ存シタリ。

慈善ノ刺戟トシテ最モ普通又有力ナルハ何レノ國ニテモ又何レノ時代ニアリテモ宗教ニヨリ授ケラルルモノニアリ、一般ニ宗教及倫理感念ハ人ヲシテ兼愛ノ動機ヲ養ハシメ個人ノ經濟活動ヲ

左右スルノ重要因子ヲナストモ觀シ得ヘク、現ニ共產制ノ諸經驗上之ニ伴フニ強キ宗教感念ヲ以テセルモノハ割合ニ好成績ヲ舉ケン事實アルニ依リテ之ヲ知ルヘシ、人類ノ幸福ヲ謀ルヘキ刺戟又ハ習慣モ時ヲ經ルニ從ヒ宗教的掟ニヨリ定メラレ又安固トセラルルニ似タリ、コハ社會上ニ於ケル殆ント一切ノ習例否衣食淨不淨ニ關スル習慣サヘモ此仕方ニテ堅メララルルト異ルナシ、愛憐ノ感情ト貧者ヲ救フノ希望ト之ヲ如何ナル根源ニ歸スヘキカ、天啓ノ命ニヨリ始メラレシヤ將タ臨機ノ變異又ハ意識的適應ニソノ源ヲ發セルヤ或ハ人ニ相互扶助ノ本能アルカタメニ然リトスヘキヤハ兎モ角トシ、ソノ開發普及ヲ見シコトハ宗教的威力ニヨル之カ推稱以前ニ古クヨリ存シタリトスルヲ得サルハ確カナリ。サレト宗教ハ教育的又ハ政治的考慮ニ基ツク從動機同様自己犠牲ニ替ユルニ自分最負ヲ以テ救済ノ動機タラシムルコト餘リニ頻繁ナリ、人而有陰德、必有陽報矣、人而有陰行、必有照名矣(童子教)ト教ユルカ如キハ之ナリ、現ニ古代ノ慈善ハ主トシテ名譽ヲ博スルノ一方便タリキト觀セル人アリ、ぞろあすた一教ノ宗教法 *Vendidad* 中ニハ言ヘリ無極ノ神ハ貧者ヲ救フ者ニソノ富ヲ與フヘシト印度教徒ノ叙事詩中ニハ疲レタル行路者、見テハ舊知ナキモ限リナク之ニ食ヲ施ス者ハ大ナル名譽ヲ得ント歌ヘルモノアリ、前記約白ノ申開キ中ソノ慈善事業ヲ數ヘシモ亦之ナリキ。カク慈善事業ニ付報酬ヲ説ケル一面ニ於テハ不人情ニ就キ天罰アルヘキコト説カレタリ、猶太傳經 *almud* ノ凄キ脅嚇トシテ貧者ノタメニ開カレサル家ハ醫者ノタ

メニ開カレント説ケルハ古代ノ宗教の著作物中ヨリ引用サレ得ヘキ幾多文句ノ典型タリ、カカル脅嚇ノ力ニヨリ信者ハ純利己的動機ノ下自己ノタメニ正義ト辨明サレ得ヘキカタメニ貧者ヲ救フコトニ制肘セラルト感シタリ、主觀的ニ考察スルトキハソノ行爲其モノハ慈善行爲タラスシテ悔悟ノ行爲タリ、ソノ動機ハ淪落ノ人ヲ助クルノ希望ニアラスシテ多少無理ナル神又ハ運命ヲ宥ムルノ希望ニ存シタリ。

#### 四

宗教ニヨリ人ノ慈善心ニ及ホセル影響ハ基督教會ニヨリ經理サレタル慈善事業史上ソノ諸相ノ殆ント一切ヲ學ヒ得ヘク一宗教ノ信念ニヨリ慈善心ヲ高ムルト共ニ之ヲ頽廢セシムルノ作用モ亦ソノ歴史ニ就キテ之ヲ尋ネ得ヘシ、否基督教徒ハ謂ハン、現ニ歐洲ニ於テ解セラルルカ如キ慈善ハ一切ノ訓誡及諷言ノ總括トシテ神ヲ愛セヨ憐人ヲ愛セヨトノ同格命令ヲ與ヘシ基督ニヨリ主要ノ宗教的制規及刺戟ヲ得タリト、又謂ハン基督教ハ始メテ純潔高尚ナル慈善詳言スレハ祈禱、悔悟及施與ヲ以テ共通ノ一目的乃チ神ノ惠ニ浴スルノ方便トシテ勸ムルカ如キ半利己的動機ト全ク異レル同胞博愛ヲ説キタリト。サレト之ヲ基督教慈善事業史ニ察スルニニこんたんちん帝以前ニ於ケル古教會ノ組合教會の自治的任意慈善ハ間モナク中世の宗門職制の救済方法ニ變リ教會ハ世俗的ニ成功セルモ事業ノ精神ハ頽廢シ始メタリ、乃チ教會ハ施與ソレ自體ヲ以テ自存目的視スル



コト止ミ之ヲ以テ教會ノ義務トスルニ至リソノ影響如何ヲ顧ミサルニ至レリ、施與ヲ受ケ施與ニヨリテ渡世スルモ其モノトシテ何等輕侮ヲ招クニ至ラス、教會カ漸増シ行ク收入ヲ經理スルノ一機關トナレルニ當リ施與ヲ多クシテソハ歸依及勢力ヲ高メントシ一面乞食及浮浪民ハ無謀ノ施與ニヨリ著シク増セルノ弊アリシト共ニソノ救貧事務ハ一部ハ普通ノ欲心煩惱ニヨリ一部ハ他ノ俗心ニヨリ腐蝕サレタリ、乃チ僧侶ハ貧民救濟ノタメニアテラレタル收入ヲ私欲ヲ充タスカタメニ濫用スルニ至リ時トシテハソノ割合巨額ニ達シカクテ誠實ナル僧侶ヲシテ絶エス之ト爭フノ必要ヲ想ハシムルノ傾向アリキ、サレトカカル明白ナル弊害モ之ヲ精神的利己テフ腐爛ニ比スレハサ迄有害トスルヲ得サルノ趣アリ、乃チ此腐爛ノタメ慈善ハ惡化シテ與ヘシ者ノ利益ヲ謀ルヘキ施與タルニ至レリ、施與ニ罪障消滅及贖罪ノ力アリトセルおーがすちんノ教ハ諸制限ヲ付シテ説カレタリト雖モ中世慈善事業ニ於ケル主動力トナレリ、慈善ノタメニ教會ニ寄進スルハ天使ノ帳面上満足ナル貸借對照ヲ得ントシ自己又ハ他人ヲシテ罪障消滅ヲ遂ケシムルノ一方法ニ過キサルノ狀アルニ至レリ。

國家ハ種々ノ理由ヨリ救貧事業ニ干涉セルモ有力ナル一原因ハ何處ニテモ右ノ事情ニヨリ授ケラレタリ、乃チ宗門職制の不正經營ト窮民ノ増大ニ對シ社會トシテ自衛スルノ必要ヲ告ケシコトトハ之ナリ。サレト殆ント一切ノ歐洲諸國ニ於テ國家ハ先ツ抑壓策ニヨリ乞食及浮浪人ヲ遮止セ

ント試ミ是等ノ策失敗セル際ニ限リ餘儀ナク救濟事業ニ當ルコトニヨリ弊害ノ禍根ヲ絶ツコトトナレリ、此事業ハすかんぢなういあノ諸國ニヨリ極メテ早く採用セラレ英國ニテハ宗教改革時代佛國ニテハ革命時代ニ採用サレタリ、獨逸ニテハるゝたゝ起リテ救貧ノ目的ニ關スル見解改善ノタメニ大ニ貢獻シタリ、其ノ著「獨逸國ノ貴族ハ激ス」An den Adel deutscher Nation 中乞食ハ全基督教界ヨリ悉ク掃蕩サルヘキコトヲ最大急務ノ一ト論シ各都市ハ自ラソノ貧民ヲ救護スヘク外來ノ乞食ハ之ヲ放逐スヘシトセリ、氏ハ寛大ニ過キ見境ナキ貧民救助ニ伴フ大危險ヲ認識シ事情ノ詳細吟味シ本トシ定規ノ組織的救貧事業ヲ要求シ濫與ノ影響ヲ顧慮スルコトニ重キヲオキタリ、救貧事業ノタメニ各個人ノ自己責任觀念ヲ銷磨セシムヘキニ非ストセル彼ハ時勢相應ニ喝破シテ曰ク

貧民ハ可ナリニ救ハルルノ狀アラハ足レリ、サレト又餓死スヘキニアラス凍死スヘキニ非ス、一人カ他人ノ勤勞ニ頼リテ遊惰ニ暮スハ不當ナリ、何人モ他人ノ財貨ニヨリテ生存スヘキ資格ナシ、求メテ貧困タラントスル者富ヲナスノ狀アルヘキニ非ス、苟クモ富マント欲スル者ハ手ニ犁ヲ執リ、己カタメニ地中ニ之ヲ求メヨ

ト、カクテ彼ハ救貧ノタメニ國家ハ教會ト協同スヘシト着想シ、勞働能力アル者ト不能ナル者、勤勉ト嫌勞トヲ判然區別シ救貧ハ窮迫ノミヲ輕減スヘク怠惰ニ補助スヘキニ非ストセリ、此見解

ハ特ニあうぐすぶるぐ、にゆるんべるぐ、すとらすぶるぐ、おれすらう、まーぐでぶるぐソノ他ノ諸都市ニヨリ採用セラレ是等諸都市ハ夙ニ第十六世紀ノ一十年代ニ特別ノ救貧規定ヲ設ケ、叙任セル救貧吏員ニヨリ窮迫セル者ノ事情ヲ調査シソノ救護ニ當ルヘキモノトセリ。サレト同國ニ於テ宗教改革後引續ケル宗教戰爭ハ國事救貧ノ進運ヲ妨ケタリえむみんぐはうすノ叙説ニヨルニ貧民ノ利益ノタメニ教會ノ有用財産殘存セル所新教僧徒モンノ財産使用上ソノ先驅者タル舊教徒以上ニ用心深シトスルヲ得サリキ、而シテ貧民救護尙依然トシテ宗門職制ニヨレル者ソノ手ニ殘存セル所ソノ救貧事業經理方法ニ於ケル唯一ノ變化ハ處分シ得ヘキ資金従前ノ如ク豊カナラサルノ事實ヨリ起レリ、サレト又此事實ノミニテモ一大利益視シ得ヘキモノアリキ、蓋シ資金豊富ナルハ貧民救濟ニ伴フ諸危險中最大ナルモノナリシヲ以テナリトセリ。

素ヨリ施與者トシテノ教會ノ失敗ニツキ説ケル所ヲ本トシソノ影響有害タリシノミト斷スヘキニ非ス、寧ロソノ反對ニカノ英蘭ニ於ケル教會財産還俗頗ル劇烈ニ斷行サレシニ拘ハラス貧民ノタメニ有利ナリシヲ認メシ歐洲道德史ノ著書れつきーサヘモ貧苦、疾病ノ諸形式ヲ輕減セル點ニ付加特力教徒ノ勉メタル功績ハ誇張スルヲ得スト説キタリ、事實上教會ハ社會ヲ救ヘ之ヲシテ大仕掛ノ救濟事業營マルルノ要アルヲ主張セシムルカ如キ程度ニ及ヘルモ一ニ巨額ノ資金ヲ經理セルカタメニ宗門機關ノ働ヲ不良ナラシメ又破滅セシメタリ、カクテ國家トシテ救貧事業ニ當ル

コト避クヘキニ非リキ、サレト事業ノモノトソノ事業ヲ促セル對世間の同情ノ大發作トハ教會ノ影響ナカリセハ存シ得サリシナラン、而モ亦宗門救貧制ヨリ國事救貧行政ニ變レルコトハ一時ノ間ハ一改良タルカ如キ趣ナカリキ歐洲ノ諸地方ニ於テ時アリテハ公事慈善ニヨリ貧民ノ必要ヲ充タスニ足ラス又ソノ産業事情ヲ改善スルニ不適當ナリシハ宗門慈善ニ此嫌アリシト異ラス、カク行政上ノ弱點アリシカタメ今ヤ貧民救濟ノ經濟的觀點ニ注意ヲ引クコトナレリ、假令ハDeLoeノ如キハ論文施與而失仁 Giving Aims No Charity 中多數ノ人ヲシテ仕事ナシト籍口セシムルニ至リシ理由ハカク仕事ナシト籍口スルコトニヨリヨク生存シ得ヘキ事情アリシカタメナルヲ指摘セリ、又れつきーノ引用ニヨルニ Ricci ハもでなニ於ケル慈善機關ノ改良ニ關スル一著書(二七八七年出版)中伊太利ニ於ケル乞食大増加ノ源ヲ過度ノ慈善ニ歸シタリ、彼ハ宗教的動機ニ促カサレシ一切ノ慈善ヲ一害惡ト認メ又ソノ害惡ハ人カソノ無援無垢ノ本能ニ驅ラレテ營ムヘキ慈善ノ弊ニ比シ多カリキト說ケリ。

カク宗教及法律ニヨリ左右サレタル俗人ニ負キテ自然ノ人ヲ揚クシ一事ハリつちヲシテ佛國革命間際ノ時代精神ニヨリ動カサレタル一人トシテ傑出セシム、之ヨリ先キ第十八世紀ノ初半以後新人道主義トシテるつそーノ名ニヨリ聯想サルルモノ起リ漸次舊來宗門ノ形式的慈善ヲ捨テソノ代リニ世人ヲ覺醒セシメ子供、家庭及社會ノ自然ニ着眼セシムルニ至レリ、彼ハ社會生活ヲ解

析シテ之ヲ説明シ、ソノ幸福ハ何ニ依リテ決セラルルカヲ發見スルコトニ專心シタリ、ソノ事タル一見些事タルカ如キモタメニ同世紀中ニ慈善革新ノ氣運ヲ湧カシメタリ、同様ニ又怜悯ナリシべんたむハ時熟スルト共ニ一八三四年ニ於ケル英國救貧法ノ原理及方法ヲ形成セシメタリト呼ハレ得ヘキ意見、定案及着想ヲ説ケリ、而シテコノ思想一轉ハ廣義ニ於テハ依然トシテ宗教的タリト謂ヒ得ヘキモノアリキ、蓋シ、人ハ同世紀ノ宗教的懷疑ニ重キヲオクモ別ニ世人ニヨリ忘ラレ易キ新教徒ノ深刻、熱誠ニシテ又良心ニ本ツク慈善モ行ハレシヲ以テナリ、兎ニ角カカル風潮ニヨリ劇致サレタル時代精神ハ第十八世紀ノ末葉ニ至リ貧民救済ニ二様ノ影響ヲ及ホセリ乃チ一ハ政治ニヨリテ然リ一ハ經濟學ニヨリテ然リ、詳言スレハ自由及平等ハソノ時代ノ優勢思想ヲ代表セル二語ナリキ、カクテ四民同胞テフ宗教的定教ハ人ノ平等テフ政治的定教ニ並列セラレソノ結果窮民ヲ一層迅速又完全ニ救フノ一傾向ヲ生シタリ、佛國諸革命政府ハ萬人ニ仕事ノ機會ヲ保證セルノミナラス防餓ノ安全ヲ保證シタリ、又同國國家カ棄子ノ世話ヲ手輕ク引受クルハ惟フニ子ハ國家ニヨリ養ハルヘキモノナリト信セシるつそ一ノ如キ哲學者ノ影響ヲ受ケシモノナルヘシ、人ノ平等テフ政治的定教ハ惟フニ又英國救貧法ノ實施上ニ影響シ法ノ濫用ソノ頂點ニ達セルタメ遂ニ一八三四年ノ改革ヲ促カセルノ事情モナシトスルヲ得サルヘシ、サレト一般の考察ニヨランカ一七八九乃至一八四八年ノ革命時代ニ社會學的信條ノ第一語タリシモノハ平等ニアラスシテ自

由ニアリ、而シテ自由ヲ語ハ政治家ニヨリ絶エス使用セラレシカ一面産業事項ニ付自由ノ主張ヲ一貫セル人々ノ群ハ新ニ生レタル經濟學ノ研究者タリキ。

初期ノ經濟學者ハ貧民救濟ニツキ説ク所妙カリキ、唯すちゆーあーと及すみすハソノ題目ヲ舉ケ他ノ學者ハ英國救貧法ナル題目ヲ借レリ、サレトなるさすノ著人口ノ原理ニアリテハ救貧問題充分ニ考量セラレ就中英國救貧法ニツキ第二章ヲ費ヤシ貧民狀態改良策ヲ論スルタメ他ノ卓越セル第二章ヲ費ヤシタリ、事實上彼ハ救濟ノ行使ヲ非トセス寧ロ輓近すべんさーニヨリ之ニ授ケラレシヨリモ遙カニ廣キ範圍ヲ授ケントセリ、サレト彼ハ又人ノ聰明ニ待ツコト貧民狀態ヲ改良セントスルノ努力ニ於ケルカ如ク多カリシ方面ナク又カクノ如ク全ク失敗セルモノ存セサルノ事實ヲ注意シタリ、氏ノ附説ニヨルニ一般原理ノ應用カクノ如ク稀ナリシ題目ハ外ニナシ、而モ亦人ノ知識ノ全範圍ニ亘リ一般原理ヲ看却スルノ危險カクノ如ク大ナルヘキモノアルヤヲ疑フ、蓋シ一特殊救濟方法ニヨル一部又一時ノ結果ハ間々普通又永遠ノ結果ニ對シ正反對ナレハナリトセリ。

第十九世紀ノ初四半紀經濟學者中 Wlately 及 Chalmers ハ廣ク救貧法及救貧問題ヲ取扱ヒタリ、就中ちやるまーすハ後ニ尙詳説スヘキカ如ク一切ノ公事救貧ハ不良ナリトノ一信念ヲ懷キソノ主張ヲ強ムルカタメニ自己所管ノ寺區ニ於ケル公事救貧ヲ廢シ貧民救護ヲ一ニ任意貢獻ニヨリ遂クルコトトセリ、同世紀第二ノ四半紀中經濟學者ト慈善家トハ直接衝突ニ陷キルノ運命ヲ有シ

タリ、乃チ彼等ハ二問題ニ付論争ヲ交ヘソノ一問題ニ付勝利者タリシ者ハ第二ノ問題ニ付破ラレタリ、經濟學者ハ救貧法改良運命ニ勝利ヲ占メ慈善家ハ英蘭ノ鑛山及工場ニ於クル婦人及幼者ノ保護運動ニ勝テリ、英國經濟學者ハ救貧法ニヨル救濟ノ縮少及穀物法撤廢ノタメニ争ヒカクテ單純ニ政府ノ干涉ヲ廢スルコトニヨリ英國產業ノタメニ大功績ヲ舉ケタリ、從ヒテ彼等ハ極端ニ趨リ政府ノ干涉ハ何レノ方面ヲ問ハス善ヨリモ寧ロ害惡ヲ加フルノ外ナカラン勞働者保護ニツキテモ亦然リト考フルノ傾キアルニ至レルモ亦怪シムニ定ラス

## 五

以上國事救貧事業ノ興起ヲ見ルニ至リシ沿革ノ一班ヲ説キ來レリ、今救貧法ノ制度ヲ國家社會組織ノ一必然分子タラシムヘキ原理何タルカヲ窺フニ此問題ニ對シ與ヘラレタル幾多解答中不當ナリト雖モ救貧法制史上重大ノ勦ヲナシ幾多ノ興味アル議論ヲ生シモノニアリ、感傷的理由及功利主義ノ理由ト呼ハレ得ヘキモノハ之ナリ、前者ニヨレハ一切ノ人ハ生存資料ニ關スル天賦ノ權利ヲ有ストシ後者ニヨレハ社會ハ自體保衛ノ利益上餘儀ナク貧民ヲ救護スルニ至ルト説ク。

各人ハ土地ニヨリ養ハルルノ權利ヲ有ストノ見解一旦政論家 Cobden ニヨリ流布サレテヨリシテ流レヲ汲ミシ第一ノ感傷的理由ハ社會團員トシテ温和、忠良ナル者ハ何レモ生存資料ニ對ズル權利ヲ有ストスルニアリ、「勦クノ權利」ト呼ハルルモノハ元來之カ佛譯トシテ唱ヘラレシ語ト謂

ヒ得ヘシ、現ニ英國救貧法史ヲ著ハセル Nicholls ハソノ著書中緒論ノ初メニ論シタリ、土地ニ於ケル第一ノ義務ハ常ニ之ニソノ生ヲ寄セタル民衆ノ給養ニ存スヘシトスルハ社會政策ノ一格言トシテ是認セラル、コハ英國救貧法ノ原理タリト、這般ノ見解特ニ英蘭ニ窮民存スルノ事由ヲソノ土地法制ニ歸セントスルノ見解ハ普通ニ主張セラレ又肯定セラルルモ何人モンノ出生ノ瞬間ヨリ社會自身又ハ何人カガ彼ニ與ヘントセル權利以外ニ一ノ權利要求ヲ以テ迫リ得サルコトヲ想ヒ又若シ個人ノ諸權利ヨリ出發セリトセンカ天賦ノ權利ナルモノト然ラサルモノトノ區別ヲ付シ兼ヌルコトヲ想起スルノミニテモンノ所説ノ眞價秤量ノ目的ハ達セラルルニ足ラン、加之コノ所謂權利ハ斷乎トシテ非認セラレ而モンノ非認ハ國家政策ノ一要道トシテ立テラルルニ至リシコトヲ指摘シテモ右ノ目的ニ資スルコト多シ、乃チ一八七五年英國ニ於テ外國救貧事業調査ノ結果ヲ報告セルモノニ付セシ Doyle 序中ノ一節トシテ傳ヘラルル所ニヨルニ

外國立法上（闡説スル所特ニ佛國立法ニアリ）最モ恐怖セラルヘキハ勞働者ニ被救濟權、又ハ貧困ノ際ニ仕事ヲ授ケラルヘキ一權利ヲ承認スルノ危險ニ如クハナシ、事實上貧民ハ救ハルルモカカル救濟ハ之ヲ受クルノ權利アルカタメタラス寧ろ慈善トシテ授ケラルルコトヲ常ニ留保ス

ト、カクテ又一面貧民救濟ノタメニ一施設ヲナスコト必要ナルハ明カナレハ佛ノ一大臣ハ「何人モ公事救濟ニ對シテ一權利ヲ有スルコトナシサレトカカル救濟ヲ施スハ國家ニ懸カレル一義務ナ



リ」ト言ヘリ、ソノ所説幾分カ論理ヲ貫カサルカ如キ嫌アルモ救貧法ニ關スル原理ノ眞ニ邇シトスヘキハ後ニ尙明カニスルカ如クナルヘシ。

被救濟權ヲ認ムルハ國家ニ危險ナルヤ謂フ迄モナシ、蓋シ各人ハ之カタメニ自己責任觀念ヲ銷磨セラルヘシ、又國家トシテ勞働需用ト生産トヲ適應セシメ一切ノ力ヲソレ相應ニ利用スルタメ各人ニ仕事ヲ授ケンノ生存方法ヲ決セシムルノ責アリトセンカ國家ハ之カタメニ堪ユヘカラサル過大責任ヲ負フコトナラン、此外又一般ニ各個人ノ自決權否個人ノ自由ハ廢セラレ一強制國家ノ實現ヲ見ルヘキヲ以テナリ。サレト又此點ニ付特ニ興味ヲ覺ユルハ一九二二年 H. Hunter ノ緒論ヲ付シ又同氏ノ編輯ニヨリテ成レン Th. Chalmers, Problems of Poverty 中ニ收メシ生存權評論ナリ、今ソノ論旨ヲ紹介スルコトトセンカ。

ちやるまゝすハ一救貧法規ニ付全ク異レル人道及正義ヲフニ道德主義混同サルト考ヘ立法上唯一ノ適當目的タルヘキモノハ後者タルヘク正義ハ法律ニヨリ強行サルヘシトスルハ正當ナルモ更ニ進ミテ人道ノ強行ヲ企テンカ法律ハソレ自身ノ正當ナル境界ヲ全ク踏出スコトトナルヘク同情ハ自由ニ放任サルルヲ要ストノ根本主旨ニ本ツキ生存權評論ニソノ歩ヲ進メ、各人ハ生存ストノ單純理由ノタメニ他人又ハ社會ニ對シ一生存權ヲ有ストノ原理ニ基ツキ貧民カ救ハルル程度ニ於テハ規律サルヘキ事物タラスシテ減却サルヘキ事物タリ、カカル一根據ニ立テラレタル制度ニ修

正ヲ加ヘントスルノ計畫ハ何レモ根本的ニ又大體ニ有害ナルモノニ付他ノ一變態ヲ生スルノミダラン、一人貧困ナルカタメニソノ同胞ノ同情ニ付期待シ得ヘキ要求ハ何物タリ得ヘシトスルモノノ同胞ノ正義ニツキテハ何等ノ要求權ヲ有セス、然ルニ右ニ德ノ倫理系統ヲ混同シ之ヲ人類社會ノ諸法律及行政ニ容ルルトキハ實際ノ混亂、不秩序ヲ招クヘシ、夫レ少數者ノ零落ニ對スル適切又自然ノ救済ハ多數人ノ親切ニアリ、サレト右ノ如クニ倫理系統ヲ混淆セル一權利想定カコノ人事範圍ニ容レラレ又ソノ想定カ國法ニヨリテ承認セラルルトキハソノ結果ハ二途ノ一以外ニ出テサルヘシ、乃チ財產ニ對スル無限侵害トシテ結局國內一切ノ家族ヲ一種ノ農家標準ニ引下クヘキモノヲ生ムカ、或ハコノ結果ヲ延ハスカタメニ嚴酷ナル施與策採用サレタリトセハ茲ニ虐ケラレタリト感スルコトヲ教ヘラルヘキ人々ノ失望ト法律其モノニヨリ作出サルヘキ幾多不平トヲ生ミカクテソノ法律ノ施行如何ニ巧ミナリトスルモ之ヲ鎮メ得サルヘシト論シタリ。所說ハ約一世紀以前ニカカルト雖モ之ニヨリ我邦ノ中古德政盛ニ行ハレシ不秩序ノ社會ヲ聯想セシムルト共ニ近日米價暴騰ニ處スルノ臨機策トシテ始メラレシ米穀廉價購買券ノ頒布ニ伴ヘル不平トニ想到シ思ヒ當ルヘキ節アラン。

理論上ニ於ケルニ倫理系統ノ混淆カ實際上ニ如何ナル不都合ヲ生スルカニ旨及セントシテチャるまゝトす説ケル所ニヨルニ幾千ノ公事救済請求者事實上ソノ救済ニ付テノ權利ヲ有ストセハ何故

ニツノ權利ヲ一權利トシテ完全、公明ニ又快ク彼等ニ授ケラルヘキニ非ルカ、辛勞又ハ名譽毀損又ハ自然ノ愛情汚濁中何レカノ事情ヲ之ニ伴ハシムルコトニヨリ右權利ノ肯定ニ遠カルノ要アルカ、此權利アルニ拘ハラス法廷ヘノ大道何カタメニ遮キラルヘク而モ亦足下ニ法廷ヲ踏ム者ニ對シテ課セラルヘキ苦痛及刑罰ニヨリ遮キラルヘキカト論シツツ實際ノ施設上權利承認テフ原則ノ論理ヲ貫カサルヲ指摘シ、一貧民院カ一獄舍、一慈惠院カ一感化院ニ近似スルハ凡テコノ悲シムヘキ論理不徹底ヲ例證スト説キ、民衆ニ對スル態度反覆常ナシ、乃チ先ツ民衆ノ權利ニツキ宣言スルモ次イテ民衆コノ權利ヲ利用スルノ仕方ニ諸障壁ヲ築カントス、茲ニ實地ト原理トノ一大不似合アリ、眞理トスヘキハソノ原理ヲ以テ充分又堅實ニ遵守スルニ堪ヘサル一原理トスヘキニアリト斷シタリ。

理論ハ兎モ角トシ諸國カ由來被給養ノ權利ニ付探レル諸態度ヲ少シク伺フハ興アルコトタルヘシ、瑞典ハ一八七〇年ニ丁抹ハ一八六六年ニ普ハ一八七一年ニ一切ノ貧民ニ對シ緊切ナル救濟ニ就キテノ權利ヲ明白ニ授ケシコトアリ、然ルニ和蘭ハ一八七〇年ニ一新救貧法ヲ編ミ何人モ救濟ニ就キテ一權利ヲ有セス、貧民ヲ救護スルハ道德上ノ一義務ニシテ民事上ノ義務タラス、慈善ノ行ヒハ教會又ハ私人ノ慈善ニ移サルヘシ、サレト是等ノ機關存セサル所國家トシテ公ケノ安泰秩序ヲ計ルカタメニ干涉ノ必要ヲ告クルコトアルヘキヲ認メ、佛ハ一七九三年ニ貧民ノ救濟ハ國家

ノ一負債タルコトヲ形式的ニ宣言セルモ諸弊ヲ生セシヨリノ後五年ニシテ之ヲ撤回セリ、此政策ハ白耳義ヲモ包括シタリ、英蘭ハ中間ノ地歩ヲ占ムソハ又賢明ナル態度タルニ似タリ、北米合衆國モ亦之ニ倣フ、乃チ人ノ被救濟權ニ付何事ヲモ説カスト雖モ何人モ生存資料ナキカタメニ餓死ニ陷キラサルノ途ヲ講スヘキ義務ハ地方團體ニ課セラレタリ、サレハ司法手續ニヨリ強行サレ得ヘキ權利アルコトナキモ一貧民ガ救助ヲ拒マレタル際何カノ救濟策アルヲ要スト判例アリシコトアリ、要スルニ個人ノ權利又ハ身分ヨリ出發スル諸學說ハ究極スル所ソノ何レニヨルモ社會トシテ行動スルノ要アルコトヲ啓明スヘキ諸原理ニ歸結セシムルコトナシ(松島剛氏譯社會平權論五〇九頁以下參照)コノ趣旨ヲ解スルカタメニハソノ學說ヲ極端ニ及ホス際ソノ結果何タルヘキカヲ察スルノミニテ足レリ、夫レ一英人トシテハ佛國ノ沿革ニ鑑ミ何等承認サレタル被救濟ノ權原ナキカタメニ事情ニヨリテハ一革命ヲ惹起シ得ヘク否事實上佛國革命ハ主トシテ救濟ヲ受クルノ望ナクカクテ失望ニ陷キレル貧民アリシカタメニ惹起サレタリト公平ニ主張スルヲ得ン、サレト佛人ヨリセンカ法律上ノ一被救濟權承認ハ濫與ヲ生ミノノ結果時トシテハ事實上ノ共產主義ヲ惹起スコト一八三四年ニ於ケル救貧法改正當時ノ英蘭ニ於テ見タルカ如クナルヘキコトヲ公平ニ反言スルヲ得ヘシ。